



^ 13
3165
1



門 13
3165
巻 1

へ 13
3165
1-9

妹婿之入娘初編叙

持主も手鞠唄を何時の頃より強ひて免
まゝに遺筋のいまご考へ得ざりし人歎い
たふより傳へきて見女子あけいしを
うるふ物々その本意はふまうんて
如くいふをたゞ識まとのたし
成人のふれ花の書ふそむ記系を記し

如くいふをたゞ識まとのたし
成人のふれ花の書ふそむ記系を記し

昭和九年
九月二十八日
購末

一夫たりて見えぬありしが徳を
 成慨の條あり。貞烈輝人の功績を
 述べるの條人を世に失ひし。小国より
 つらそ 輝よまのふ 徳にまをりしが始
 免ふこといひ 細かふまのせしめれ
 ぬ 今よの編を
 著るぬ 固陋の著るべし

林賢初口二

遠東の家の徳人もあり
 ぬ 徳を世に失ひし 小国より
 つらそ 輝よまのふ 徳にまをりしが始
 免ふこといひ 細かふまのせしめれ
 ぬ 今よの編を
 著るぬ 固陋の著るべし

拙著書主人

ゆい

女兒春遊手毬三圖

按おぼむむののの
毬まとま打う毬ま



道みち念ねんかかふふ一一打う毬まハハ唐たう韻いん不ふ
いいととくく毛けをを丸まるめめちちののあありり
ままきき辨べん色しき立た成じやう不ふ毬まををちち
曲まがりりまま枝え之之云いここ木きををちち
毬まををちちかかそのそのとと絶たて

繪
初
口
二

ススふふがが婦ふののああららはは
ああままををここめめ
天あま津つ通と女にょ

ちちのの
舞まい

かかののいい

林はやしののきき

須す屋ゐ彦ひこ兵衛べゐのの
次つぎ女にょ於お民たみ鼓つづみ打うち
幸さい野の傳でん吉きちがが妻つまととななりり
良よ人ひと死してて嬪ひん婦ふととななるる



繪
初
口
二



推し手

亡命矣

寫呼奇哉

月下氷人巧

三月

かき

かき

四の魂

独著



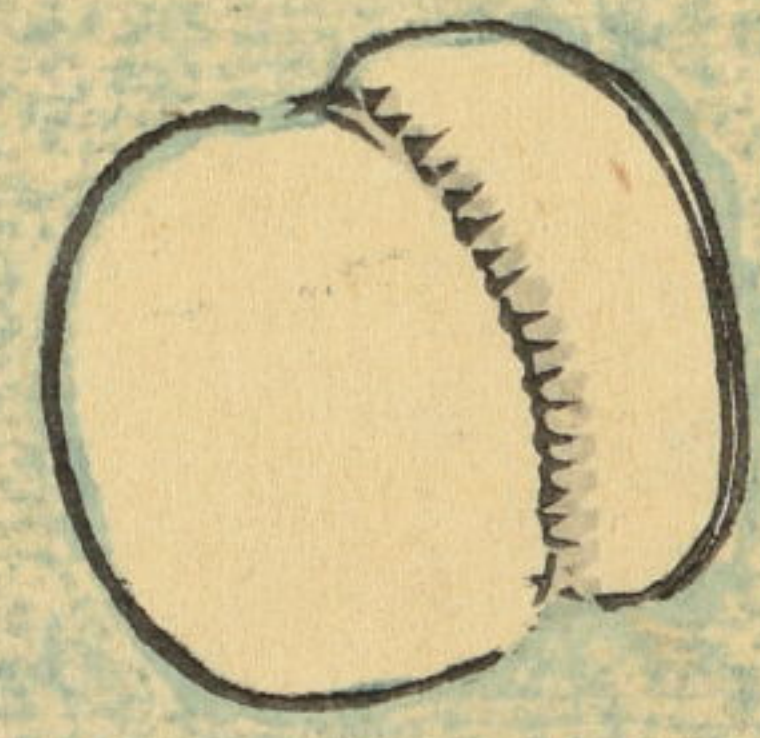
湖
影
情
而

○中國の浪人
安田幸八

○胡屋彦兵衛少女兎於胡
危難を遁き了恩小
より因らば幸八と
夫婦小あ

赤良切四

冬島重



河津箱也

おと存

うは年



松亭金水

人の
え教
拙著也

御見初

毬唄三人娘初編巻之上

東都

松亭金水編次

第一回

おろくの山谷通ひの白馬小跨りて小室節を唄いせ
る。こまを仔細の通客とあせりよりの物もえとて人々も
よく知る新。その頃今の彌初町より親青大士の心堂進
まの二町の郊原あり。左右の松杉茂然と枝うち文
高新由多。脱小並樹の名も送きり。さきさき荊曲流を

握め人の足はききさう。自由の改あるにけん。さうき
かるもの人の年まゝ三十四五あるべく。両刀をば横とて由。
さめる富貴の人のつるえは羽織さうの著流し小片
褌とて日和下駄。握蓮の音を唱へつ。まづうらぐま
止つて身を拵きく小首を傾け「ハテあつたあア異つて
アノ返声の定う小女奈しる小強様うまてるけりやア句
引的音利とま不差ひわく可也さうふト独活傍の
藪をさしつらひく。声を導き小半所むけぶ果して年の

三ノ巻初ト

以十七八ある婀娜美女を捕へる侍二人連逃んとするを
抱か仕せしめ伏せて我様まんとする兼勢不美女の
一生懸命の声をきくあげ死を覚ゆ。踊り想へど甲
斐文あき強力。さう小繪方あきと容をみるより強出る
伴の青春物をゆりきぶ美女を捕へ侍兩個を
突除き。思ひゆらぐまを放し。二足と見せらるくと
下りあがら小眼をむき出「ハイ已の何処の奴ぞ出
核不突飛しるお合意しむト拳をあげ。鬼もおらる

此方の一個も。在る林の枯枝を。取てらち掛る。ま
得らうと此を交へ。矢庭小件やまにの枯枝こし奪とひらう。ま
獲とえとらち揮かま。兩個ふたつの侍さむらいありく。故ゆゑにぐつと
あひらぬ。腰こしある刀やいばを引ひ抜きぬて。切きて蒐とる小青春こしゅんの
止とむを得えぬ枝えだありせ。兩個ふたつを對あひひ交まひの枝えだきり
まきぬ。桃ももと数かずひが。兩個ふたつの元もと来きた音ねさしゆ。まのりぬ。本
の碎くだ蕩たけ。足あしの端はし所ところも定さだまらぬ。お太お刀た筋ぢんも在あら
らう。更さらも小兒せうにのぐつと。怖おそうとあらぬ。ぬ。ぬ。ぬ。氷こおりの刃やいばを

二ノ巻

らち揮かま。得えぬ梅うめが。枝えだあり。刀やいばの切き味あじ
刃やいばよとをらち斬きつ。ま。一個ひとつの侍さむらいあり。糶あへまひ
切きぎげらま。うんといひつ。平ひら張は伏ふす。こまこまて強かくく個ひとの枝えだ
死し物もの狂くるひ小こあ。切き先さきか。青春しゅんの腕うでを七なな寸すんをらち
らち流ながる血ちを。小こ怒おりをま。早はやと端はしに。お太お刀た筋ぢんを。平ひら張は
どて。甲かぶを。三さんつ小こあ。と切き付け。ま。おを。い。ぐ。例れいとら。
供ま青春しゅんの。ま。ま。ま。二ふたの腕うでの。痕あとを。杖つゑ小こ。杖つゑと。杖つゑと。
血ちの。ま。ま。ま。袖そでの。被おも。殿との小こ。海うみ。ま。怖おそうき。俵ひら。ま。小こ。

愛女の命より侍小柄び倒たふさまたふさとたふさもたふさ母ははああああああ
此中動うごきまひひ青あお春はる子こ処そこへへととりりてて有ありりををううけけ
記おししコこウうくく愛あ女めささんん獲とりり一いまませせおおちちをを我わ様やまとと兩ふた個こ
の奴やつ等らのの通とりり多おほくくははままるるモモウウははおおのの氣き遣やすす女め
ままうう一い昔むかし侍さむらいのの碎くだ狂くるのの何なに指さしのの紙かみのの人ひとををまませせ
些ちもも知しららぬぬがが不ふ法はふ様やまとと目めでで見みままりりとと逐あてて教あへへ
ておおちちのの雅みやび義ぎをを助たすけけおおげげううととああのの所ところがが又また物もの之の味あじ私わたくし
ああののちちややアア跡あとへへままぎぎんんととああののひひももぬぬ人ひと教あへへ今いま

三ツの夕四上三

ううらら土つち地ぢのの知し練れん所ところへへ有ありりののままおお祈いのへへ解と死し久くおお安やすかかアアまま
まままままま。使つか侍さむらい口くちををおお小こ人ひとののああ。おおちちのの他ほかおおアア知しららぬぬ人ひとののああ
うう。未いま練れんららいいののううららのの場ばををままらら選えんばば死しななるるままでで隠かくままるる
積つりり。そそのの處ところででおおちちののああののまま祈いのうう。ササアアくく早はやくく帰かへららななせせんん
ししままままとと愛あ女めのの教ありりああげげ。彼あのの青あお春はるをを熟じやくとと青あおをを眼め
元もと小こ漢かんをを深ふかくくモモウウああつつががううとといいまますす。私わたくしのの釣つり掛かのの
川かわ岸あし通とりりおお小こ形かたちままいいのの。ああのの以もつつ病びやうもも急いそぎぎ親おん音ね
ささななへへ世よ教あををううけけ。毎まい日にちおおちちののあありりををいいまますす。今いま日にちのの生なま物もの

りやく赤用があつて是をいふものなり。是より後が是の海に
 多のて来かるもの並樹不家小出まうと兩個の侍を
 をのりぐん私を拘てさう連て来あて。サアの心とを可う
 可ぬきさうは教はと云件のは後私の心をぬきさう
 何と返祥の怖一さふ何卒怖忍とさういふはさう
 合せし由受はとて後あふ心をさう足に執る。我様さう
 としと所。きつゑがお出た兇鬼を突除て下さうさう
 一様一たさうまものあへ刀のまうふ。氣の類はさう如く
 一様一たさうまものあへ刀のまうふ。氣の類はさう如く

一様一たさうまものあへ刀のまうふ。氣の類はさう如く

倒まきで。死ぬとえ悟の朋を衣へ毒の根のあらざ
 罷まうさう。悪の報いの怖と。兩個のきつゑのまにかり
 見えも果敢あひのさあ。さうさういさうをの掃らさ。まひ
 急ゆよ。私の中あひのさうね人殺し。まことそのうく不
 手病まて。定めてお痛とまてさうませう。ママ何格一
 うら直らうと。交女も不と有漏くと。涙ささうさう
 をさうさう。青春の血刀を鞘小収めく。荒示一。何
 不ゆえ。さえる。この世でとを看む。知らむ。まて。定め



深い因縁で。おちの者小入まで殺し。身紙を交す由前
 の世の罪を報いせよ。サア、よく性分せし備人小
 見付ると。兩個とも小入の海に。長長く。さらすト
 元来一方へ急ぎ足。あけに。愛女の。まある。裳の泥を
 拂ひの。あき。跡より。急ぎ。逃つきて。一モ。まア。か待
 ちさ。そ。あ。い。ま。の。思。ひ。切。り。人。を。助。け。る。任。実。の。お。こ。ろ
 る。ま。た。旅。で。も。あ。ら。う。が。私。の。乳。が。海。ま。せん。ま。て。悪
 の。百。分。一。で。も。報。下。る。の。で。は。せ。て。飛。ぶ。甲。斐。の。あ。い。と。す。の。

三の四上六

半。あ。い。ア。何。処。の。か。方。で。か。名。い。何。と。は。作。ま。ん。う。何。卒
 一。下。さ。う。ま。一。被。小。推。り。の。り。を。き。一。ナ。人。か。ま。く
 何。の。強。と。名。宗。や。う。あ。者。だ。も。あ。ま。ま。と。宅。と。い。い。ゆ
 あ。サ。ト。半。由。の。ま。せ。ん。一。を。や。う。不。仕。作。と。果。し。が。つ。す。
 史。あ。う。毛。う。う。何。処。ま。ん。の。ま。ま。の。か。出。ま。さ。る。新。ま。で
 四。一。所。不。あ。り。ま。せ。う。ト。切。不。い。ま。ま。と。青。春。が。一。ヤ。ア
 ハ。困。つ。の。の。え。あ。う。ば。ま。せ。う。が。昔。併。ハ。中。ふ。方。の
 浪。人。の。土。地。へ。ま。て。奉。仕。任。を。あ。ら。う。と。思。つ。て。ゆ。く。処

がさと思ひつゝの由あり。この中田甫の家、其寺の和尙
といふの昔併の玉者。く不便つて二月をり。合意客不成
つる血のうへ。名は安田幸八といひまはが。喉氣も今
日のことを他小云て下さる。おト。笑て妻女はうち息取
申田甫の事。其寺の私の宅の昔提所。テをまへ。マア
不測。赤田縁。さて私の弱掛。て爺。状ハ絹。屋。た。ま。未。
田舎。得。ま。ぐ。ま。い。う。ろ。上。列。世。及。その。ま。在。を。商。小。歩。
初。め。て。此。第。由。田。舎。の。商。吉。私。の。名。ハ。絹。と。中。一。妹。ち。

若り及初上七

民との及の男。田をたを弁。その次の採。も。家。と。中。ま。た。
ぐ。え。未。僅。る。商。人。の。家。内。も。多。く。困。窮。又。其。書。一。ま。ま。と。
ど。の。血。懸。ハ。母。小。由。肉。く。お。後。と。妻。女。お。礼。を。い。う。ま。ん。ト。
ひ。を。引。と。う。可。レ。サ。レ。ハ。其。と。う。く。集。め。く。も。は。酒。を。し。と。の。ご。い。た。
入。小。の。い。ま。う。ろ。先。と。竟。小。は。の。姓。る。の。の。別。不。何。由。其。報。
上の。種。の。と。い。ふ。い。ま。も。と。あ。い。ま。今。日。の。と。い。ふ。あ。ち。の。胸。不。あ。の。
と。流。め。て。親。兄。才。小。の。ま。ん。其。ぬ。が。其。報。し。ん。し。う。ろ。必。
し。の。ま。ま。を。あ。ま。さ。て。其。あ。さ。る。お。ト。笑。て。お。絹。が。ハ。い。く。文。

あつ。まゝと一口みゆきかみまのまのまゝと腕のおんが
さぞお痛うらむ。まゝのまゝの子。宅あゝのゝ。紙茶う。ありま
けまど今のもるふ合ません。うゝまゝのふ。一。ナ。ニ。紙を
大きのやうな。ま。ま。皮を切をさる。あゝのう。仔細ありか
あゝ。昔お。け。根。不。血。が。対。さ。う。う。人。ぐ。ん。さ。う。異。不。思
わ。ら。夜。の。明。る。う。ち。何。格。う。し。月。不。立。ま。の。や。う。不。仕
中。う。ア。レ。エ。う。沙。茶。の。伐。刻。ど。ま。う。ど。何。時。ま。を。ま。て。由
因。ド。と。さ。ぞ。お。ち。の。肉。で。お。案。ト。ら。う。淋。し。け。ま。ど。由

三ノ巻の

此処より美由吾儕がまをて入るて居るうゝ。急いでま
お帰りつゝ急ぐまらまて今まら。小何うふい送らま。お
とあゝま。必。あ。う。紙。か。眼。乞。ま。と。う。く。不。足。を。早。め。て
さ。の。帰。ら。ま。幸。ハ。ら。あ。ま。ら。く。く。見。送。る。情。園。う。ぶ。る。陰。陰
を。あ。ま。ら。あ。者。の。史。が。為。小。侍。兩。個。を。教。へ。う。い。る。ひ
ゆ。ら。ぬ。罪。造。の。と。ま。不。自。己。の。紙。を。受。へ。ま。う。羽。ま。が。目
奉。ま。の。口。ぐ。あ。の。て。由。性。ま。ら。せ。ず。人。不。の。隠。ま。を。病。害。生。
長。の。月。日。の。浪。人。不。が。う。ま。ら。り。の。行。へ。の。ま。あ。竭。果。て

その節の夜持の情小股をこも食する番まで一巻の
働きのあきこの夜のうら何のせんと胸のうら沈吟
あて由金砂の力づく小由及びあく。我者こらうて来ま
をまね歩形中田南宗其寺うて帰るけり

第二回

お絹のあきぎらうが家小をづくまおあひあうらま
あは成利の情除きのまてあうらう何のうらひ
あまをまね歩形中田南宗其寺うて帰るけり

あうん。尚も水性あしをこも。手あを取うと題ひを受
あぶらうあひの解んと沈吟うらうぐ性く路の。此方の後
うらぬつとあ。武ま湯といふ子剣うら。巨仕あまあひの
お絹小後と抱つげばお絹の懲うらうといひ。あひま
ねが寝立て。澄り勝る懐練あ。コレサお絹さんその
やうに。洗伝を漬しあうらうといふ。昔併の疾く惚ぬの
て相あひるの仕形と眼つま。大概そのつていふうら
かあ航善電とやうなとやう。観音さまの目まといふ

殊の表むき。いよゝの借と情合があ。さうさかめつこの
胸が。むやらむらうして物事。ゆ。さ小著ぬをり。四月
さうが。お絹の帰りが。解ま。の生。の。渡。さ。の。借。て
え。ま。い。と。か。け。の。ま。し。を。使。偉。と。お。小。強。出。す。並
樹。及。暗。い。所。で。窓。の。影。ハ。テ。怪。し。い。と。血。を。隠。し。突。こ。も
ま。ぬ。男。と。女。換。投。が。り。の。堅。い。や。う。を。ゆ。何。処。小。情。を
合。ん。と。初。ま。い。と。跡。小。著。ま。ま。ま。づ。が。男。の。影。の。浪。人
の。と。さ。う。い。ふ。と。對。身。い。か。ち。何。時。の。あ。る。小。彼。招。る。治。帝

と。ゆ。易。く。成。ま。ま。の。う。う。大。外。と。と。膝。由。は。ま。る。腹。の。あ。
ま。ぬ。小。帰。つ。て。あ。の。と。を。四。月。ま。え。へ。と。あ。つ。か。候。ま。ま。時。の。あ
と。を。明。く。地。さ。う。が。大。強。ぎ。を。招。と。か。あ。ま。い。を。法。小。あ。り。緯
お。ま。の。う。う。推。あ。い。ふ。ま。の。て。い。は。か。の。ま。あ。ぬ。と。飛。ら。の。物。を
押。つ。け。て。堪。へ。て。指。の。の。日。お。あ。が。可。あ。ま。い。と。あ。ち。あ。ま。い。小
あ。の。音。傳。強。面。あ。の。ま。う。が。女。ぢ。あ。あ。ま。い。丁。家。時。が。り
よ。の。首。尾。下。口。鏡。あ。ら。小。袖。口。の。を。を。さ。う。の。ま。い。と。あ。ち
を。体。ひ。ま。を。さ。ん。と。する。程。小。か。絹。の。勃。然。と。う。ま。い。と。あ。ち

こゝち。稽小連はひの若然。さうして兩個一床ふるまひて天
下晴くの支拂さう。指のたへ人のあつらひの。アア
まがら。お互不堅くと。指のつ。此の若史で昔併の目来
う。ま。面目で。指をさ。あ。の方で。法面と。あ。つ。て。い。た。ま。い
あ。清。い。ひ。の。新。を。う。く。ま。う。と。い。て。是。あ。た。い。ト。柳。あ。ぐ。の
氣。あ。も。も。知。り。や。武。ま。清。い。ち。り。く。京。改。左。格。あ。つ。て。い。ま。ま
い。底。の。あり。蓋。の。あり。と。り。の。沢。さ。う。を。怪。しい。今。の。雄。ぶ。
あ。る。昔。併。の。合。衆。が。ア。ま。い。彼。人。の。今。ま。で。一向。未。改

三ノ巻

不見。昔併が彼処でト。汝の鼻緒を切。困つて。指の処へ
通。のか。つ。て。事。して。ま。う。と。何。く。あ。ら。う。を。信。切。あ。ま。ま。と。ま。う。ら
娘。の。け。ま。ど。え。ん。ま。ま。立。流。あ。か。侍。何。格。と。ま。ま。入。不
疑。を。と。云。て。由。可。以。その。ト。汝。を。引。さ。う。つ。て。鼻。緒。を。あ。り。
サ。ア。ま。ま。を。履。て。お。出。と。練。小。籠。の。信。切。を。実。い。さ。う。の。由
不。測。で。あ。ら。う。む。ま。ま。不。礼。の。仕。や。ら。由。あ。り。毫。を。咬。て。中。言
い。せ。ん。ま。ま。て。名。を。由。突。さ。い。と。歩。形。あ。ら。う。種。々。と。言。て。由
明。く。あ。ら。う。あ。の。で。彼。処。を。別。ま。い。と。い。ふ。沢。サ。ト。云。は。ら

夫を美小受く更「今」友招う。美女の母ひがけおし徳が
 あるマツ。その治家由解りどお彼家ゆのどト朝を
 あざう軒をく。あるおよしくお頼の証と。母の枕の側にお
 遅くあの方の杖をのひ様らつて程ゆる。海せまの海
 ぬ胸格おつひど寐ぐてお。その夜を明一次の日の日中
 ろるに小ありけきど外へ出さき方便あり。右さる左さる
 おひおまも小。今日お祖母さまの今日より。さる墓と
 ろを佛託て。おの幸八を初んとおの母小のありけきと。

美小受く更

母の枕を搦げつ「昔」併ゆ久く藤て居るうら。お墓
 系のおせんより。気が著くあう。あざう。宗美寺の晴乃
 武を清たも連て性ごがよの「ナ」に気がつひいざらません
 私か武を赤をつまき。出ましの跡で困る。年の性か
 老をよりごうら。私を帰るまも。武を赤い宅小。居るを
 小。は作へ下まき。格別なるおまませんト支度
 ともく。さる出く。是を計る小中。晴乃の宅小。美寺
 小到りる。早く小墓と系り。茶のるへあさく。納所小



子舎を異て「何うぞ君小お月小かつりていりふ。お方が
お出あたし申しとトり持て走りゆく。おうらお絹を懸へ
まて「さて此脱の存ゆらぐん。えごお世話小ありまうと
そてお疵の何指でございせん。今件今物早くお尋せ
中へいばいせまうと。何指お出指うばいせし。竟に
くあつまい。まあ。あつて。格別せよあつて。答り
お痛とあつて。せうと。つりて。人お交れと。何者いせし
小怒でいふ。よ。身あつて。おまはつて。ナニ。紙いし。通
て。

海い。仔細あり。と。ぐ。ま。せ。ま。痛むのサ。お持て
お心も若あつて。茶を脱ぐ。このゆまは。隠して。居る。ら。
風茶を脱と云へおきおす。ヨ。あ。か。絹えん。今日格
別。除まう。重く。毒て。お具あえん。お志の。様。い。が。人。が
何と。あ。つ。と。あ。い。ナ。い。か。で。十日。の。ま。う。の。ま。う。の。使
あ。と。い。う。ら。安。茶。ド。あ。の。で。お。具。あ。え。ん。の。た。指。サ。あ。つ。て
より。お。怪。く。つ。て。お。び。ぢ。あ。つ。ま。い。お。松。の。毛。う。何。指。お。お。成。あ
ま。の。ころ。と。あ。い。て。肚。腹。の。安。茶。で。け。け。け。け。ま。あ。あ。ん。ど。

成りど重く事のて人さるの必りが。悪いこと。此作の
母を理のあいが。又あらばとこと。此容るるを。いんあぐ
ちやア。気が海ません。何格う人のあらあひやうふ。
此処へ来りやうのありまはまら。一「左格サ。そのまア。あ
るもぬけきで。何処う来るといふは。いままは。一「そのま
あの一何サ。墓場の様も小本が。あざら。一「掛流が掛
つて。あても外うるまを。入まらやア。幸小困う。そ。此処を
運入て。たへつ。ま。石。燈。筆。毫。の。根。を。ら。り。と。い。ふ。と。む。に

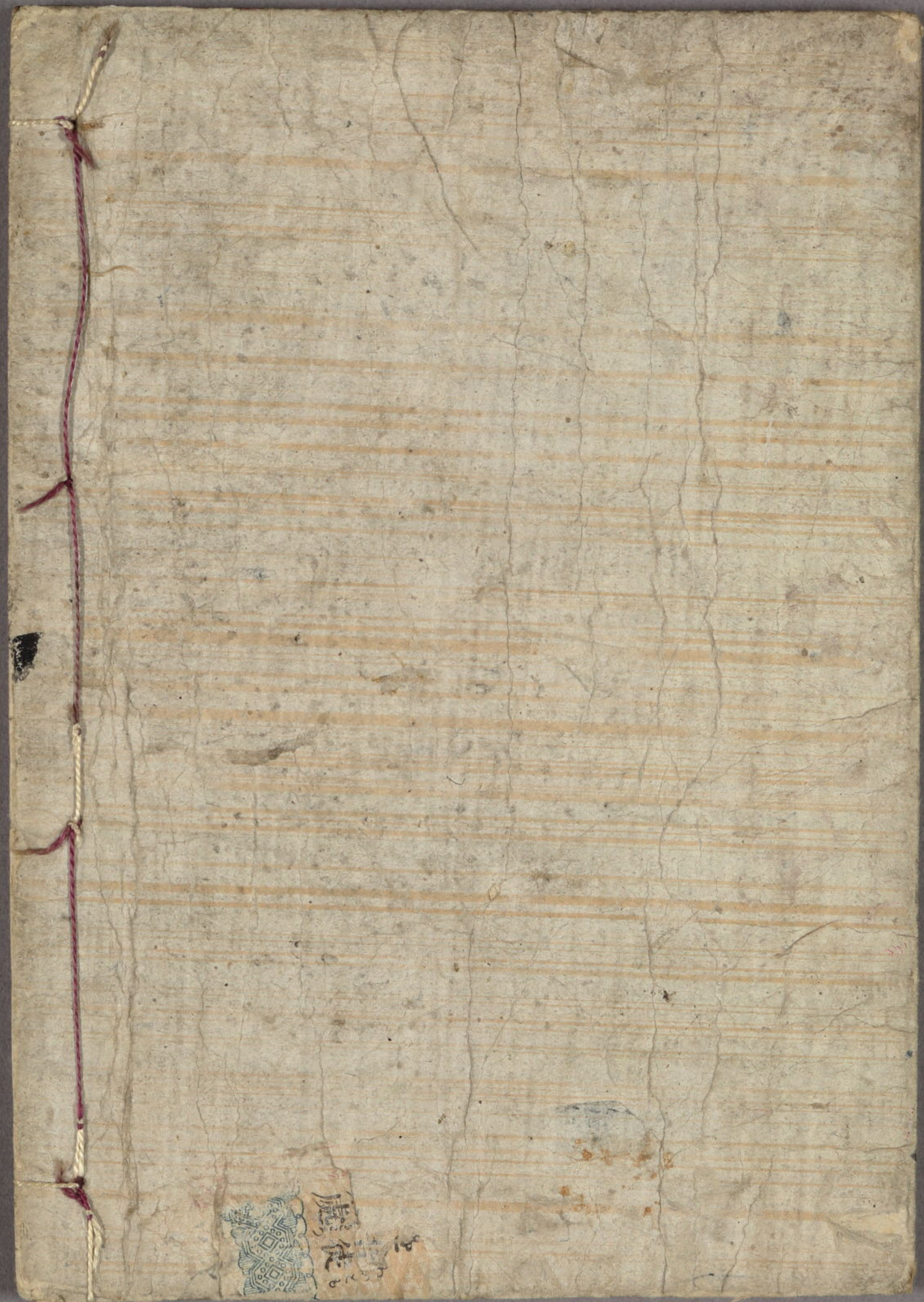
一「より安板ま

この庭先どつれおん下。振敷の障子をあけまら。一「ア。その
墓場うら。ゆ。よく。いん。え。ま。は。ん。が。り。ど。ら。う。う。来。る。日。あ。や。
誰小の。知。ま。ら。い。う。ま。せ。ん。子。一「幸。一「此。処。を。を。枯。藤。く
と。澄。紙。ど。し。の。ま。ま。ら。と。ら。け。あ。い。ぜ。う。一「何。と。い。ま。と。と。て
中。か。ち。格。小。か。目。小。か。ら。い。ま。は。し。ま。ら。や。一「何。と。い。ま。と。と。て
小命の。程。で。ご。い。ま。ん。の。う。一「麻。末。小。ち。の。い。と。一「何。と。い。ま。と。と。て
ま。ん。ま。の。た。格。と。此。夜。着。服。小。大。小。血。が。つ。つ。て。を。ら。ま。う
と。つ。け。が。何。格。あ。ま。ら。い。ま。ら。い。と。何。あ。ら。格。お。て。来。の。て。あ。ら。い

幸^{さい}「^あそわア有^あごさう。まう^ま初^{はつ}の^{はつ}由^ゆ犯^{はつ}う^うい^いご^ご昔^こ侍^しハ
 久^{ひさ}し^し浪^{なみ}人^{ひと}也^{なり}。著^{あき}智^ちの^の衣^え乾^か由^ゆ沽^か濁^{じやく}。仕^し方^はが^がる^るの^のころ
 と^と物^{もの}早^{はや}く^く。人^{ひと}の^の記^きあ^あの^のうち^{うち}重^{おも}口^{くち}也^{なり}。よ^よく^く洗^{せん}ひ^ひ落^おし^しや^やこ^こト
 波^{なみ}の^のあ^あく^く。氣^きの^の毒^{どく}さ^さ。テ^て何^{なに}指^さう^うして^{して}困^こる^るの^の。助^{すけ}け^けを
 あ^あさ^さぶ^ぶの^の愚^ぐを^を。百^{ひゃく}か^かが^が一^{いち}由^ゆ報^{ほう}じ^じる^る乃^な理^り。と^とり^りあ^あて^てそ^その^の身^みの
 乳^ちが^がり^り。よ^よき^き沉^{ちん}呻^{しん}さ^さあ^あぐ^ぐと^と胸^{むね}の^の痛^{いた}め^めら^らう^うか^かけ^けり

迷唄三入娘初編卷之上 終

三入初夫



處使
印